

# 6. 子猫の社会化

生後2週目から7週目までが猫の社会化期といわれます。自分の周りの世界を認識し、ほかの猫や人とのつきあい方を学んでいきます。

最も大切なのは、この時期に人との適切な触れ合いを経験することです。人になつく基礎がここで作られるのです。人懐っこい猫は譲渡の可能性がとても高くなります。この時期にできるだけ多く人と触れ合う時間を作りたくさん遊んであげましょう。

## 人とのかかわり

子猫の世話を日常的にしているスタッフだけではなく、男性・女性・作業着の人・私服の人などさまざまな人と触れ合う機会を作りましょう。

夢中になっておもちゃで遊ぶ子猫の様子はかわいらしく、譲渡の可能性も高くなります。たくさん遊んであげましょう。



怖がっている子猫に無理やり触るのは逆効果です。人の手を怖がるようになり、恐怖心から攻撃性を示すようになる場合もあります。

ケージ越しにやさしく声をかけるなど静かなアプローチから始めてみましょう。

子猫の方から近づいてくるのを待ちます。また、空腹時を狙って普段よりも少しおいしい缶詰などで誘い、食べている間に少しずつ体に触れる方法もいいでしょう。



## 猫とのかかわり



猫同士で遊ぶことはストレス発散になり、子猫にとっては楽しい時間です。相性のいい子猫同士が一緒にいることで、精神的にも安定し、複数飼育の家庭への譲渡にも適応しやすい子猫になります。(感染症の心配がない場合に限ります)

## 将来に備えて

社会化期には、将来的に必要なと思われるコトやモノに慣らしておくこともいいでしょう。時間や人員に余裕があれば、爪切りに慣らす、キャリーケースに慣らす（通院時や災害時に役に立ちます）練習をしてみましょう。



優しく触ったりなでたりする延長で爪切りに慣らしていきます。餌を食べているあいだに後ろ足から、という方法もあります。

もともと猫は狭いところに入りたがる性質がありますが、餌をキャリーケースのなかで食べさせるようにすると、さらに早くキャリーケースに慣れます。



## ミルクボランティア

離乳前の子猫の世話は非常に手間がかかります。職員が対応するのは困難です。そのようなときに、ボランティアに子猫を一時的に預かってもらい、人の手がかからなくなり自分でフードが食べられる程度まで育ててもらうのが、ミルクボランティアです。平成25年1月現在なる、仙台市、名古屋市、川崎市、神戸市など、12の自治体がこのシステムを採用し、譲渡可能な状態にまで子猫を育ててもらっています。ただし、どの自治体でもお願いするボランティアの選択は慎重に行われています。自宅に飼い猫がいる場合の感染症の問題や、子猫を育てるスキル（経験値）の問題、また譲渡ではなく「一時預かり」であり行政の事業に理解があり信頼できる方であることなど、誰にでもお願いできるものではないというのが、多くの自治体の意見のようです。それでも、この「ミルクボランティア」の効果は大きく、家庭で手厚くケアしてもらえ、トイレも覚え、社会化もごく自然に行われることで、一般家庭に譲渡されやすい猫になります。

